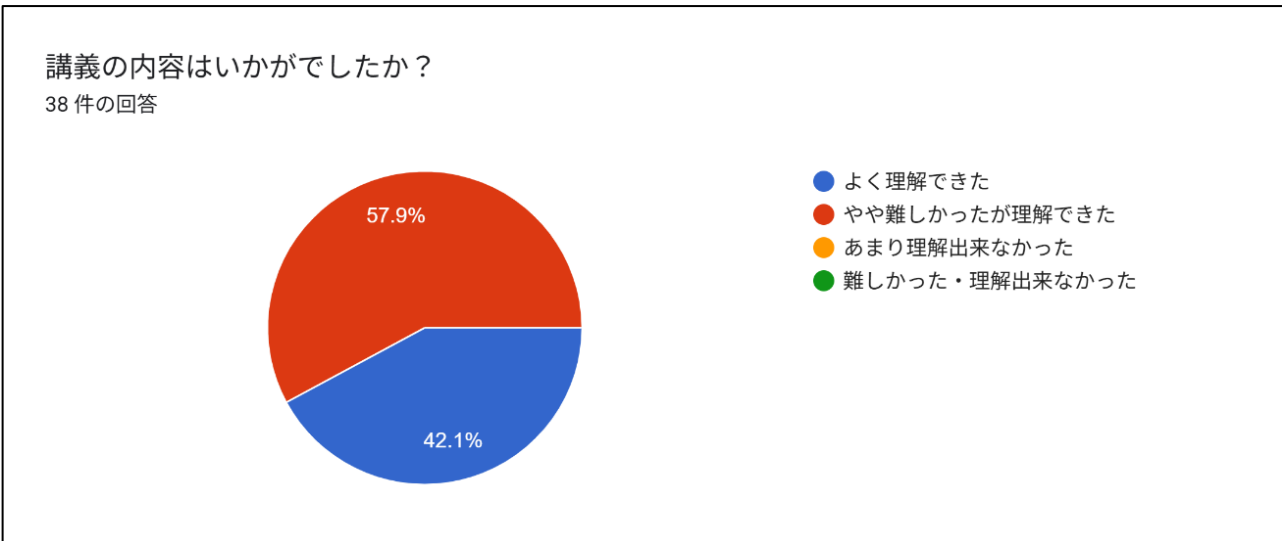
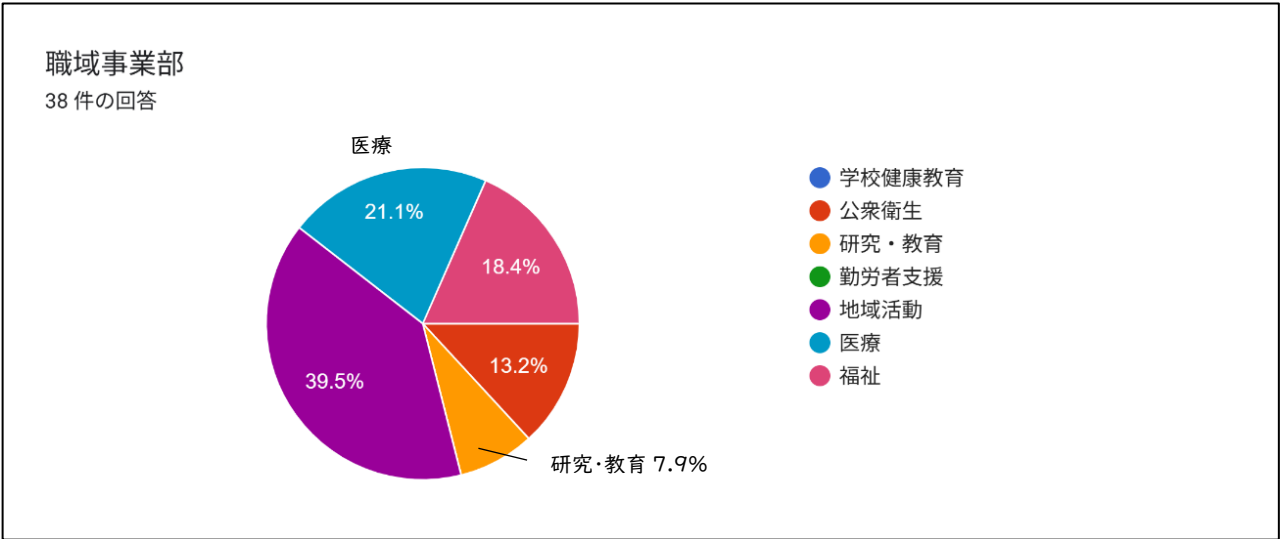
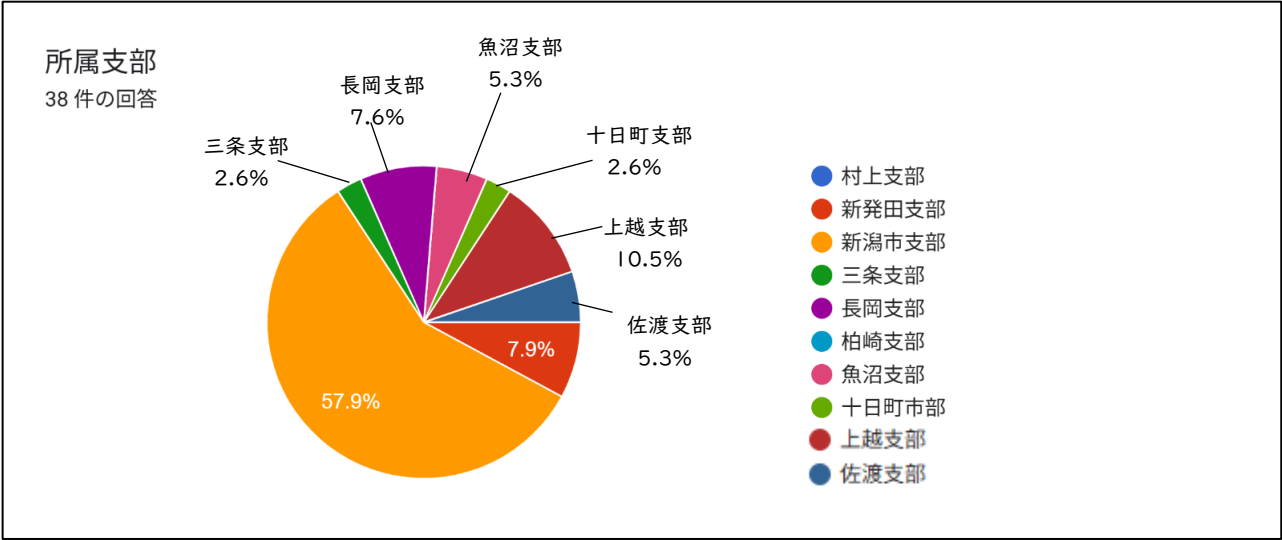


【新潟県栄養士会 栄養ケア・ステーション】
2025年度CSセミナー〈第3回〉受講後アンケート集計結果

演 題：「CKD患者の栄養管理（バージョンアップ版）」
講 師：新光会村上記念病院 栄養科長 北林 紘 先生
配信期間：2025.8.7～2025.8.13
○受講者数 76人（アンケート回答者 38人）
○再生回数 188回



○講義内容について・講師への質問・感想

- ・データが少なくても、クレアチニンクリアランスの数値 $\times 0.715 \Rightarrow eGFR$ が求められることが理解できた。
- ・英語でのデータが多く、説明を聞いても、しっかりと理解できない部分があった。しかし、最新の情報をえることが出来て良かった。また、マニュアルの無料ダウンロードが出来ることも知れて、有益だった。
- ・苦手なCKDの栄養指導のポイントが聞けてよかったです
- ・高齢者のCKD患者さんへの栄養指導について、よく理解ができました。
北林さんの説明は分かりやすいので、また続編を期待します。
- ・常に最新情報を得ようとされている姿勢に感服しました
- ・近年のエビデンスをご紹介いただき、CKD食事療法の根拠、変遷を理解することができました。
説明も丁寧でわかりやすかったです。
- ・勉強させていただき、ありがとうございました。高齢なもので音量設定を少し大きくして頂けると助かります。。
- ・慢性腎臓病の入居者の制限について迷う事がありますが、高齢者の場合は食事量自体が減少して制限の必要が無い方がいらっしゃいます。栄養状態が予後に影響を与える事や、カリウム制限の考え方、塩分制限について塩味の感じ方の違いなど大変参考になりました。実務に活かせる内容でした。
ありがとうございました。
- ・講義は難しかったが、マニュアルをみて、より理解を深めようと感じた。
- ・出し割醤油を作ります。
- ・CKDの食事指導について、一律に制限するだけではない対応が推奨されつつあるということが分かった。
在宅での指導の参考にしたいと思う。
- ・個別対応は指導者も情報収集の努力が必要と感じた。
- ・よく理解できました。CKDの指導となると身構えてしまい、苦手意識がありますが、マニュアルなど活用し対象者に分かりやすく実践しやすい指導を心がけたいと改めて思いました。

一つ質問です。

加齢に伴うCKDの場合、重症度の書き方で原疾患は何を記せば良いのでしょうか？

《 北林先生からの回答 》

原疾患がわからない場合は、「不明」になります。

高齢者の場合ですと高血圧と加齢による「腎硬化症」が原疾患と考えられなくもないですが、医師の診断が付いていない場合は「不明」で良いと思います。

- ・わかりやすい講義をありがとうございます。在宅で高齢者の栄養相談をさせていただいていますが、データが無く、医師からの意見書や家族からの話をもとに状態を推測しながら話をすることがあります。その際に聞くべき話のポイントや身体的な特徴などあれば教えていただけるとありがたいです。

《 北林先生からの回答 》

- ・足のむくみなどはないか？（うつ血性心不全や尿量の減少）
- ・軽い動作で息切れしたりしていないか？（腎性貧血）
- ・体のかゆみはないか？（尿毒症症状）
- ・食欲、食事量は低下していないか？（尿毒症症状、活性型ビタミンD製剤による高Ca血症）
- ・痩せてきていないか？（尿毒症症状）
- ・関節や節々の痛みはないか？（CKD-MBD）
- ・尿の泡立ちや色は？（蛋白尿、尿潜血）

などの確認ができると思いますので、参考になれば幸いです。

- ・バージョンアップ版としてより記憶に残るお話をいただいて勉強になりました。
慢性腎臓病の指導マニュアル最新版を携帯しようと思います。
- ・メタ解析、システマティックレビュー等、分かりやすくまとめて説明頂き、貴重な講演でした。どの病態も食事療法に大筋はあっても、患者毎の特性から指導方針や経過が異なる難しさを日々感じています。中でも味覚閾値の是正と、昨今の熱中症予防のためのスポドリ・塩分摂取を促すメディアを盲目的に信仰する患者には苦慮しています。汗をどれくらいかく？その汗に含まれる塩分は？そもそも尿管で再吸収がと説明しても受容頂けないケースは多々あります。今回の講義を参考に、患者の話を聞き、生活に寄り添った指導ができるようになりたいと感じます。
- ・常に世界の最新の情報を学ばれている北林先生を尊敬し、今後も今回のように定期的に要点を講義いただきたいと思いました。
- ・カリウムや食塩摂取についてなど、個別性を考えた栄養指導の根拠など、またCKDの栄養指導の情報をアップデートできました。ありがとうございました。
- ・CKD患者は塩味閾値が低下している、栄養指導の回数と食塩摂取量の関係についてが印象に残りました。有意義なセミナーを拝聴出来ました。